

塩谷&南那須 梨作業ポイント 2021 vol.1

2020年12月9日

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

☆今回の重点事項

- 花芽の着生状況を確認し、目標収量に必要な花芽数を確保する。
- 黒星病発生防止のため、落葉処理を徹底する。

1 管内の次年産花芽着生状況等

- ・今年、花芽分化期の7月が低温日照不足だったため、豊水以外の主要品種の腋花芽の着生が悪い。
- ・反面、短果枝は豊水以外良好である。

(1)幸水

- ・腋花芽：不良～やや不良
- ・短果枝：並～良好
- ・短果枝の枯れ込みが散見される。

(2)豊水

- ・腋花芽：良好
- ・短果枝：不良～並
- ・短果枝からの枝の吹き出しが多く、短果枝維持率が低い。

(3)あきづき

- ・腋花芽：不良
- ・短果枝：良好
- ・短果枝育成枝（昨冬の剪定時、新梢の先端を切り戻し、棚面に対し45度程度に誘引しておいた枝：図1参照）の短果枝着生は良好である。

(4)新高

- ・腋花芽：不良
- ・短果枝：良好

(5)にっこり

- ・腋花芽：不良～やや不良
- ・短果枝：良好

2 2021年産主要品種目標収量（目安）と必要花芽数

品種名	収量 (kg/10a)	平均果重 (g)	最終着果数		必要花芽数 /樹冠1㎡
			果/10a	果/樹冠1㎡	
幸水	3,000	360	9,300	10.3	16
豊水	3,500	420	9,300	10.3	16
あきづき	4,000	500	8,900	9.9	15
新高	4,500	500	10,000	11.2	17
にっこり	5,000	750	7,500	8.3	13

注：最終着果数は、商品化率を90%、樹冠面積占有率を90%として算出。必要花芽数は最終着果数の1.5倍として算出。

3 本年の整枝剪定のポイント

(1)幸水

- ・腋花芽の着生が少ないため、短果枝中心になる園が多いと思われるが、できるだけ3年枝以下の側枝を利用する。
- ・3年枝以上の側枝を利用する場合は、来冬側枝を更新できるよう必ず近くに予備枝を配置する。
- ・側枝の更新が少なくなるが、ハダニ類等の越冬病害虫の密度を下げるため、側枝の誘引ひもは必ず更新する。
- ・予備枝は、今年伸びた新梢を1/2～1/3程度残して切り戻し、棚面に対し45度になるよう誘引する。
- ・予備枝としては、太さ8～10mm程度の中庸な強さの枝が扱いやすいので優先的に利用する。
- ・今年伸びた新梢の先端部分に着生した腋花芽は、黒星病に感染している確率が高いので、側枝として利用する場合は必ず先端を切り戻す。
- ・黒星病発生を低減するため、側枝間隔は35～40cm程度確保する。

(2)豊水

- ・短果枝維持率が低いため長果枝への更新が多くなると思われるが、長果枝は黒星病が発生しやすいので側枝間隔は35cm程度確保する。
- ・今年伸びた新梢の先端部分に着生した腋花芽は、黒星病に感染している確率が高いので、側枝として利用する場合は必ず先端を切り戻す。
- ・できるだけ4年枝以下の側枝を利用する。
- ・4年枝以上の側枝を使用する場合は、来冬更新できるよう必ず近くに予備枝を配置する。
- ・予備枝は、今年伸びた新梢を30%程度残して切り戻し、棚面に対し30～45度になるよう誘引する。
- ・予備枝基部の上芽は負け枝防止のため取り除く。
- ・ショウガ芽の上向き果台は軸折れ果が発生しやすいので、横または斜め上向きの花芽を1～2果残し整理する。

(3)あきづき

- ・腋花芽の着生が少ないため、側枝の更新が少なくなると思われるが、ハダニ類等の越冬病害虫の密度を下げるため、側枝の誘引ひもは必ず更新する。
- ・品種特性として、腋花芽の着生が少なく、短果枝の維持も良くないので、毎年短果枝育成枝を適宜配置して、側枝の更新を図る。
- ・短果枝育成枝は、今年伸びた新梢を3/4程度残して切り戻し、棚面に対し45度程度になるよう誘引する。
- ・短果枝育成枝としては、強い枝を利用すると新梢が多く飛び出し、短果枝が着生しにくい傾向が見られるので、中庸な強さの枝を利用する。
- ・短果枝育成枝の配置間隔は、棚面が暗くなり果実や側枝の生育が低下しないよう留意する。
- ・枝が硬くてもろいため、冬場に誘引すると折れやすいので、春先に誘引す

る。



図1. あきづき短果枝育成枝（処理後1年経過）

(4)新高

- ・腋花芽の着生が少ないため、側枝の更新が少なくなると思われるが、ハダニ類等の越冬病害虫の密度を下げるため、側枝の誘引ひもは必ず更新する。

(5)にっこり

- ・腋花芽の着生が少ないため、側枝の更新が少なくなると思われるが、ハダニ類等の越冬病害虫の密度を下げるため、側枝の誘引ひもは必ず更新する。
- ・古い側枝は、果肉障害が発生しやすいので、4年枝以下の側枝を利用する。
- ・側枝の配置間隔は35～40 cm程度とする。

4 休眠期の病害虫防除（耕種的防除）

(1)落葉処理

黒星病の第一次伝染源となるので必ず実施する。

◎実施時期 完全落葉後～3月中旬

◎実施方法

- ①熊手やブローア一等を使って、落葉を処理しやすい場所（機械の走行路等）までかき出す。

※ ほ場周囲の落葉も伝染源になるので、ほ場内にかき集める。

- ②ハンマーナイフモアで落葉を細かく砕く。
- ③ロータリーでほ場にすき込む。

(2)粗皮削り

◎粗皮で越冬する害虫

ハダニ類、ニセナシサビダニ、カイガラムシ類、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイ等

◎実施時期

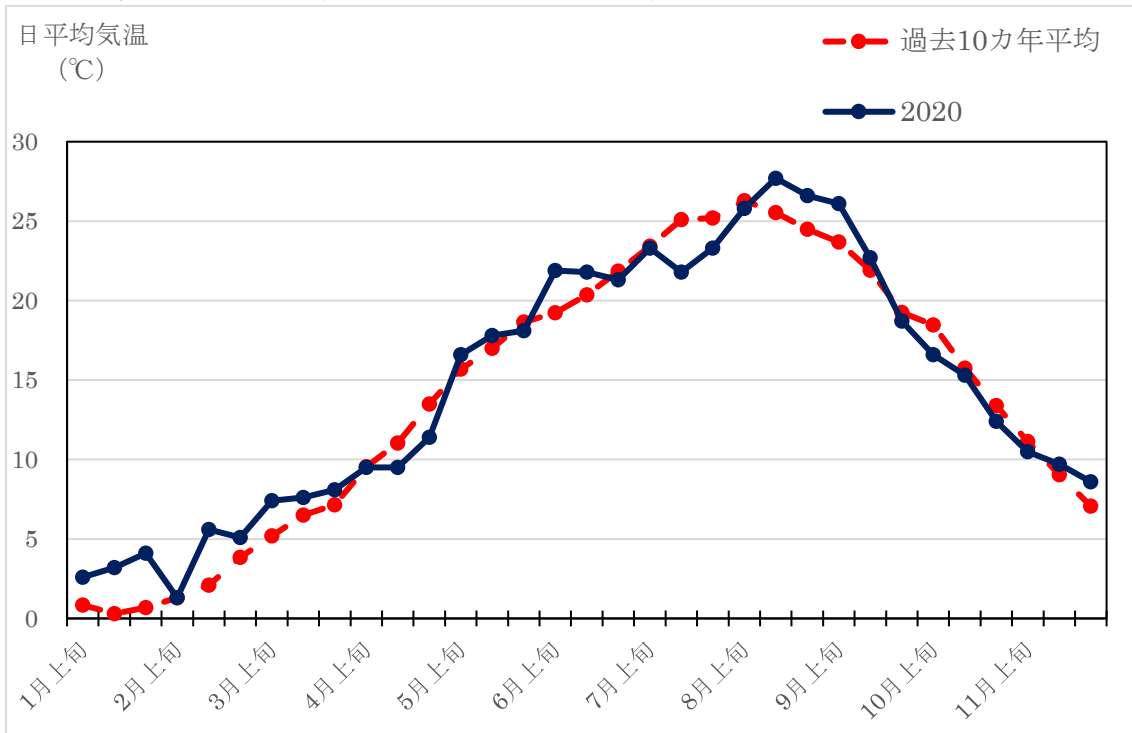
休眠期

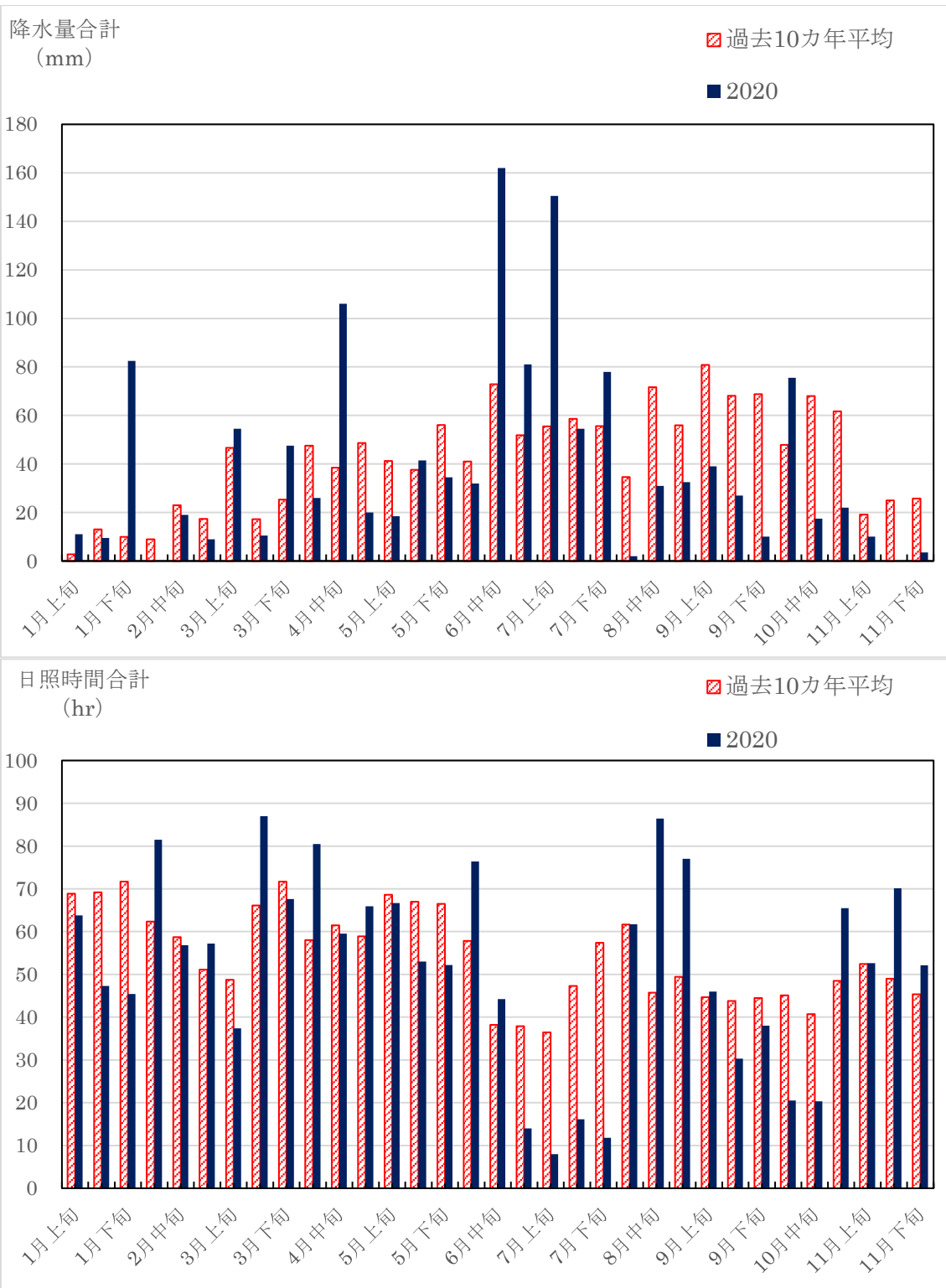
※ ただし、ハダニ類は2月下旬頃から粗皮から脱出するので2月中旬までに実施するのがベスト。

◎実施方法

バークストリッパー（水圧粗皮剥ぎ機）やナタ鎌等で主幹や主枝等の粗皮を削る。

5 本年の気象経過（アメダス那須烏山地点）





6 季節予報（関東甲信地方）

(1) 1か月予報（12/5～1/4） 12/3 気象庁発表

○特に注意を要する事項

- ・期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込み。

○予想される向こう1か月の天候

- ・平年と同様に晴れの日が多い。

○各階級の確率

- ・気 温 低 い20% 平年並40% 高い40%
- ・降 水 量 少ない40% 平年並30% 多い30%
- ・日照時間 少ない30% 平年並40% 多い30%

(2)3か月予報 (12月~2月) 11/25 気象庁発表

○予想される向こう3か月の天候

- ・12月 平年に比べ晴れの日が多い。
- ・1 月 平年と同様に晴れの日が多い。
- ・2 月 平年と同様に晴れの日が多い。

○各階級の確率

【気 温】

- ・3か月 低い30% 平年並40% 高い30%
- ・12月 低い30% 平年並40% 高い30%
- ・1 月 低い40% 平年並30% 高い30%
- ・2 月 低い30% 平年並40% 高い30%

【降水量】

- ・3か月 少ない40% 平年並30% 多い30%
- ・12月 少ない40% 平年並40% 多い20%
- ・1 月 少ない30% 平年並40% 多い30%
- ・2 月 少ない30% 平年並40% 多い30%

梨作業ポイントはこちらからもチェックできます。

